

が読書能力と詭弁が成長したとき、おおむねそのことが明白となってくるであろう。」結局のところ人種・性別・国民性、或いは宗教的基盤上の識別を禁ずる法律がたぶん広げられていくであろうし、宗教的機関はそれらの存在理由が弱くなるが故にメンバー以外の増えつつある人数を処理するであろうという結果を強要せられることとなろう。

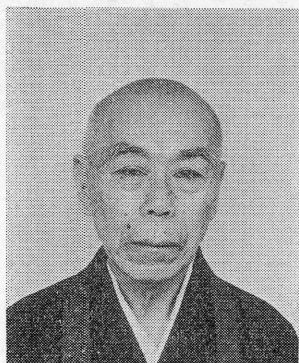
他方においては社会福祉を指揮する神の命令は宗教の不変性によって同じく不変の如く見なされるであろう、そして人と社会が社会福祉において契約—その数は増え、あるいは減り、一つの方法であるいは他の方法で—する主な理由の一つは神の意志を全うすることへの願でありつつけるであろう。

これは万人が共有する惻隱の情とでも言うものでしょうか。私は仏祖のお導きと感じ、家内の協力を得てその幼児を養育していたところ偶々、昭和八年十月、我が国に初めて子供の人權を守るための法律、児童虐待防止法が施行されることになり、関係省庁よりの強い要請もあり、その該当児童を収容保護する委託施設として、杉並学園を

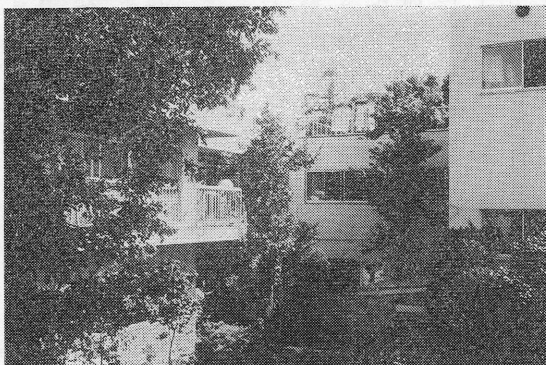
## 社会福祉法人光明会 杉並学園の紹介

森 芳 俊

(光明会杉並学園長)



私が宗門寺院経営の隣保事業に関係していた頃、それは昭和七年十二月末、ある不遇な父子に出逢い、その悲惨な事情を、知るに及び、万一父子心中でもされてはと思いついて、そのまき見過ごす気になれず、先々の見通しも考えず即座にせめてその幼い子供だけでも我が家に引き取り保護することを決心した。





創立したのである。

その当時は経済的に不況を来とし、労働者は低賃金によって子女の教育をしなければならなかったから、教育するよりも働かせるといふ社会情勢であった。特に子女の労働は女工哀史の示すが如く年少女子であり、農村山村の出身者であった。

浄土宗社会事業年報（昭和九年九月第一

輯）によれば隣保事業十四、その中七ヶ所が東京に集中していた如く、都市における隣接地区の個人及び家族に関する諸問題を援助解決しなければならぬ状態であった。

即ち浄土宗の社会事業施設は連絡助成調査研究七八、隣保事業十四、保護七三（養老三、窮民救護一五、人事相談三五、釈放者保護一四）福利一五（職業紹介四、簡易食堂二、授産四、理髪浴場四、消費組合一）児童四〇一（育児一、保育託児四〇、幼稚園四五、児童相談四、児童遊園七、農繁期託児二八三、貧兒教育五、虐待児童保護一、少年保護一三、妊産婦保護二）保健並医療一三（健康相談四、診療八、精神病予防保護一）を掲げている。この中の虐待児保護施設が本園であることは自明である。

当時私が「虐待児童保護事業について」述べものを左に記します。

子供を愛護せよとか、児童保護事業がいかに国家的に大切な事であるか、又は児童虐待防止法の精神とかいう様な事は、いやしくも社会事業に関心を持たるる方々には今更駄文を呈する迄もなく、すでに充分御承知の事と思う、自分が昨年九月東京府社

会事業協会発行の社会福利に寄稿せる難感から抜書して各位の御批判を仰ぎ度いと思ふ。

私が被虐待児童の保護を目的とする杉並学園の建設を発願し、其の實際運動に着手してより満一ヶ年、而して我等社会事業に従事せる者の待望していた児童虐待防止法が実施されてより半歳余を経過したる今日、誠に浅い経験ではあるが所謂實際家のみに与へられた尊い体験を得たる事は自分として近来にない喜びである。

彼等被虐待児童なる者は十人が十人共通の特質をもっている。その代表的のものを挙げれば、精神的には極端なるヒガミ根性と浮浪性を有し、肉体的には悉く栄養不良児である。此れは云ふ迄もなく家庭愛に恵まれざりしに起因するものであるから、此の点を当事者がして行けば本事業は必ず成果を挙げ得る事を信ずる。此意味に於て一ヶ所に余り多くの人数を収容することと家庭的に非ざる社会事業団体に委託することは絶対不可である。要するに本事業は或る意味に於て不良少年の予防事業とも云ひ得る事が出来よう。

本園の收容児童は年令に相当する教育を園内にて受け、それぞれ公立小学校に編入學し通學せしめているが必ず一度は家出する。長きは三日短かくて一昼夜は行方不明である。少くとも従来の彼等の生活から比較しても現在の境遇には心から感謝し満足すべきと思はるるに、何の不満があつての家出か。其の原因を種々調査せしに彼等の家庭や雇傭者より極度の虐待や酷使に耐へ兼ねて家出し、半月又は一ヶ月の長期に渡る浮浪生活を経験している為に一時は節度ある家庭生活や學校に於ける規律的生活と學習が可成苦痛に感じられるらしい。然し嬉しい事には一二ノ例を除いては皆前非を悔ひて殘園し、以後決して無斷で遊びにすら出なくなる。

收容兒の中に一番年少者（八才）にして一番手に負へぬ子供がいる、盜癖はある、嘘はつく、七日に一度は浮浪する。其上人並に勝れた強情者である。小学校の先生にも随分迷惑を掛けるので何度謝まりに行つたか知れない。然し、彼の前生こそ実には涙なくしては聞かれない程悲惨なものである。彼は不義の子にして生れ落ちると共に

肉親に別れ八歳の今日迄に他人の手に渡る事二回、其の間奇を極めた彼の生活が童心の發育を妨げ現在の如き偏質者にしてしまったのである。だが彼も性は善である。雨の降る度に學校に迎ひに行く家内の心尽しに感じていたのかそれ共無意識であつたかは知らぬが或る日家内が用達に出かけた後で夕立があつた。彼は其の時早速雨下駄と己れの背よりも長い傘とを両手に提げて町の途中まで迎ひに来ていた。常不輕菩薩が非人乞食にも仏性ありと礼拝されし心持が想ひ浮べられる。

猶ほ現在では全国仏教各宗を通じて此種専門施設として地方長官より委託指定を受けたるは只本杉並學園のみである。然るに一方本年度は東京府のみにても昨年に比し約百名分の予算増加を決し、該法の普及徹底を期する趣きである。

以上のように児童保護事業が問題兒を中心に展開されてきた。即ち貧兒、孤兒、少年感化事業を主としてきたが母性乳幼児、就學兒から更に進んで一般児童の保健や保護に拡大され特殊児童の保護相談及び鑑別機関を設け専門的に分類收容するように發

展してきた。

當園は約五十年に亘る今日まで養育してきた児童数は実人員六四八名に達し、その中には日支事變又は第二次世界大戰に出征し戦死したり、或は戦時中空襲等の犠牲になつた者もいるが、これ等出身者の多くはそれぞれ我が道を進み、社会人として平和な家庭を営み、血縁ではなくとも實質は孫にも等しいそれら出身者の子供も咄嗟にその数が思い浮かばぬ程で、中には大學を卒業し公務員となり会社員となり、或は商店員となり結婚し己に數人の曾孫まで誕生している。

そもそも児童とは年令的に限定された人間であらうか、また親子の關係における子供であらうか、或は社会的には保護育成される次の世代を荷負う児童であらうか、広辞苑では心身が完成の期に達せぬ人、低年齢の未成年者、學校教育法では満六―十二歳までを學齡児童、児童福祉法では満十八歳未満を児童としている。実に少年法では二十歳に満たない者、或は諸外国でも年令的には各種に分れている。また私有財産制を基盤とした家族制度の中での児童は家業

の労働存続の手段として育てられてきた。従って、その時期には捨子への慈善活動や一時的な慈善が展開される以外には方法がなかった、即ち児童も物的存在でなく人間として仏性を有する尊い人なりとの立地に立たざるを得なくなってきた。

時たま戦争という国家存亡に関わる一大事によって児童の虐待防止は当然見直され児童保護の救済制度から、更に前進した児童福祉と転換せざるを得なかった。

仏教における慈悲心こそが人間を救う唯一の道であるとともに人間相互の援助、即ちお拌み合ひながらその人の尊い良い部分を引きあげて行く所に人間の向上発展が自から得られると信ずるのである。言ひかえれば人は誠心誠意を以って事に処することであろう。この事が社会福祉そのものに通ずるか否かは別の問題として、仏教の根本原理ともいべき仏法僧の三宝即ち聖徳太子の篤敬三宝こそが、人間の社会生活における基本的態度であろう。

ここで宗門各位に提言したいことは、往時即ち大正十二年の関東大震災を契機として我が浄土宗には、矢吹博士、長谷川良信

両師を筆頭に、多くの宗門社会事業家が輩出し、社会事業界に不滅の業績をのこし、当時仏教界では浄土宗即ち社会事業とまで認められ、仏教界に大きく刺激をあたえたことは衆知のことであります。

翻て仏教とは慈悲心なりの教えを時処諸縁に応じ実践された聖徳太子、光明皇后を始め或は行基、弘法鉄眼等古聖の足跡を再確認し規模の大小をとわず立地、環境、寺院の実情に応じて、一寺一業の奉仕活動を進め、これら先覚者の遺訓に報いるべきではなからうか。特に最近の異状な世相に対応する仏教徒の福祉活動を、社会は強く要望していると思う。今こそ聊かなりと慈悲の心を教化伝導に併せこの地上に具現すべきではなからうか。

森 芳俊

かくして本園もまことに細やかな事業ながら昭和五十七年には創立五十周年を迎えることになり、その記念事業として設備と内容の充実を図るべく着々とその計画を進めつつある

本園の事業概要を述べると次の通りである。

一 目的 本会は仏教精神に則り要保護児童の保護養育並びに教化を目的とする

二 沿革 昭和八年一月二十日現在地に私有財産を寄附し、社会福祉法人光明会杉並学園（養護施設）を設立、同年十月児童虐待防止法実施と共に東京府知事より被虐待児童委託指定を受ける。

昭和九年十二月一日 神奈川県小田原市谷津新光明寺に分室設置。

昭和十三年十月 社会事業法適用認可。

昭和十九年一月 東京都大宮前戦時託児所設置

右 同年七月 東京都授産事業分室を設置したが終戦と同時に廃止、

昭和二十年三月 戦災児、戦災学徒その他本会において援護を必要と認めたる者の收容保護実施。

昭和二十二年三月一三日 組織を財団法人と変更

昭和二十三年一月一日 児童福祉法による養護施設として認可

昭和二十七年五月十七日 社会福祉法人変更認可、同年十二月小田原分室閉鎖。

昭和二十八年十月二十四日 創立満二十周年

# 記念式挙行

昭和三十九年五月十五日 創立満三十周年

# 記念式挙行

昭和五十年十月六日 創立満四十周年記

# 念式挙行

## 三 事業運営の状況

(1)基準定員五〇名、

(2)昭和五二年度実人員四五名

(3)園児の処遇 園児の教育は近隣公立小中学校及び高校に通学させ園では補充的学習指導を施している。義務教育終了児童は本人の性格知能に応じ上級学校又は適当な職業に就かせている。また法による保護年令を超過し委託解除された者は適当な保護責任者に引取らせ又は引続き園で保護指導に当る。

## 四 年中行事

本会の運営は仏教精神を基としているので、仏教に関する行事を生活に取り入れている。夏季休暇には臨海、林間生活を実施し、正月、春秋には遠足行楽を行うほか、官公署、学校又は民間の諸行事には極力参加するとともに、地域の団体・児童等にも建物・設備を開放している。

## 五 その他

(1)役員 理事七名、監事二名、評議員一

五(内評議員七)職員一八名、園長一、

書記一、指導員三、保母八、調理三、

栄養一、嘱託医一、

(2)土地建物 土地一、二〇〇・五八㎡

(自有地八〇三・八九㎡、借地三八三・六三㎡)建物一、〇五〇・五六㎡  
(鉄筋コンクリート造陸屋根、ブロッコ造亜鉛メッキ鋼板葺及び木造瓦葺二階建一部三階建二棟)

## 全 体 貸 借 対 照 表

社会福祉法人光明会

(昭53.3.31現在)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	4,911,509	流 動 負 債	1,941,376
現 金	882,622	未 払 金	1,732,907
預 金	3,612,982	預 り 金	208,469
未 収 金	415,905	固 定 負 債	26,300,000
固 定 資 産	110,384,192	設備資金借入金	26,300,000
建 物	80,842,392	負 債 合 計 (A)	28,241,376
固定資産物品	2,023,800	基 金	110,384,192
土 地	24,318,000	基本財産基金	103,518,392
権 利	2,400,000	運用財産基金	6,865,800
そ の 他 の 固 定 資 産	800,000	積 立 金	△26,120,000
		固定負債積立金	△26,300,000
		その他の積立金	180,000
		剰 余 金	2,790,133
		前期繰越剰余金	1,712,747
		当 期 剰 余 金	1,077,386
		純 財 合 計 (B)	87,054,325
資 産 合 計	115,295,701	負債・純財産合計(A+B)	115,295,701

施設会計収支計算書

社会福祉法人光明会  
杉並学園

自 昭和52年4月1日  
至 昭和53年3月31日

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
81 事務費支出	57,265,433	91 措置費収入	52,894,492
01 職員俸給	26,817,497	01 事務費収入	38,107,420
02 職員諸手当	20,793,178	(01) 経常事務費	24,643,500
(01) 扶養手当	173,300	(02) 期末手当事務費	9,841,500
(02) 調整手当	2,159,210	(03) 給与等改善費	3,620,400
(03) 期末勤勉手当	13,597,499	(04) その他の事務費	2,020
(04) その他の諸手当	4,863,169	02 事業費収入	14,787,072
03 賃金	1,233,430	(01) 飲食物費	7,908,400
(01) 嘱託医手当	54,000	(02) 日常諸費	3,865,590
(02) その他の賃金	1,179,430	(03) 教育費	2,382,255
04 法定福利費	3,035,113	(04) その他の事業費	630,827
05 厚生経費	748,826	92 補助金収入	23,971,353
(01) 職員共済費	652,796	01 都道府県補助金収入	23,971,353
(02) 職員福利費	96,030	(01) 公私格差 是正費収入	6,060,206
06 旅費	390,920	(02) 都法外援護 事務費収入	11,862,922
07 一般物品費	462,917	(03) 都法外援護 事業費収入	6,048,225
(01) 消耗品費	318,767	94 寄附金収入	545,659
(02) 備品費	144,150	01 寄附金収入	545,659
09 印刷製本費	5,600	(01) 事務用寄附 金品収入	93,750
10 光熱水費	548,970	(02) 共同募金収入	150,000
11 燃料費	24,800	(03) その他の 寄附金収入	301,909
13 修繕費	15,800	96 雑収入	1,125,586
14 役務費	400,684	01 雑収入	1,125,586
15 借料損料	400,800	(01) 事務費実費 徴収金収入	931,105
16 各所修繕費及び 修繕引当金繰入	647,470		
(01) 各所修繕費	647,470		
17 雑費	1,739,348		
(01) 職員等給食費	1,163,443		
(02) その他の雑費	575,905		
82 事業費支出	20,659,065		
01 給食費	10,230,274		
(01) 児童用給食費	8,980,976		
(02) 給食指導費	1,249,298		

02 保健衛生費	330,046	(02) その他の雑収入	194,481
03 被服費	1,248,362		
04 教養娯楽費	995,890	小 計 (C)	78,537,090
05 日用品費	353,043		
06 本人支給金	573,300		
07 光熱水費	1,534,843		
08 燃料費	373,607		
09 器具什器費	541,322		
10 修繕費	96,630		
12 医療費	610,827		
13 教育費	3,715,921		
(01) 義務教育費	1,469,089		
(02) 高校教育費	384,607		
(03) 学校給食費	1,246,710		
(04) 見学旅行費	299,452		
(05) 入進学支度金	316,063		
15 就職支度費	55,000		
小 計 (A)	77,924,498		
83 当期剰余金	612,592		
小 計 (B)	612,592		

### 仏教徒社会信条（未定稿）

1、仏教徒は社会経済上の思想及制度乃至社会構造の如何を問わず、仏陀大慈悲の精神に基づいて人類の平和と社会の福祉との為に菩薩の願行を實踐するものである。

2、仏教徒は日本憲法の基調たる民主主義の精神に随喜し、個人の尊厳と男女の平等人格の自由を認識し、社会の平和、公共の福祉増進を人生の任務となすものである。

3、人口問題に就ては政治上、経済上の理由による人為的抑制又は調算に同調せず、信仰に基く健全な家庭生活を整備せしめようとする。

（長谷川良信遺稿より）